

発行  
天理教本愛大教会

〒453-0821  
名古屋市中村区大宮町 1-60  
TEL (052) 461-4326  
MAIL mail@hon-ai.org  
〒632-0071  
奈良県天理市田井庄町 19-1  
TEL (0743) 62-0378  
編集責任 広報部

活動目標  
喜びの旬  
おたすけの日々  
楽しみの道

### 立教の元一日、親の思いを受け継いで

心勇んで秋季大祭を迎えよう

今月26日には立教の元一日に由来する、本部の秋季大祭が執行される。大教会でもおぢばの理を受けて、13日に秋季大祭が勤められる。

コロナ禍で従来のような勤め方ができなくなって久しい。困難な中ではあるが、だからこそ私たちようにぼくは、立教の元一日に込められた親の思いを受け継ぎ、各々のつとめを果たしていく決意を新たにしよう。

親神様は、陽気ぐらしを見て共に楽しみたいとの思いから、この世と人間をお創め下された。天保9年10月26日、旬刻限の到来と共に、教祖をやしろとしてこの世の表にお現われになり、世界たすけのための御教えをお啓き下された。

この立教の元一日に由来する秋季大祭には、私たちようぼくも、自分自身のとめと信仰の元一日の心定めを改めて確認させていたきたい。

コロナウイルスは相変わらず猛威を振るい続け、私たちも一昨年までとはまったく異なる日常を送ることを余儀なくされている。今

まで大勢の教友とともに、互いに励まし合いながら通ってきた道も、今は互いの間に大きく距離を空けて歩まなければならなくなっている。

しかし物理的な距離がいかに離れていても、私たちは、親神様の思召を信じる心と陽気ぐらし世界建設への決意をともししていることを忘れないようにしたい。

困難な中ではあるが、ようぼくお互いが「このたび、世界一れつをたすけるために天降った」と仰せになった親神様のお言葉を信じ、お互いに手を携えて歩む日を楽しみにして、まずは秋季大祭とそこに込められた親の思いに心を寄せさせていこう。

#### 新連載

現代に生かす「用木の道」

大教会長が動画でも

本愛誌では、今号から安藤吉人・大教会長による新連載「現代に生かす『用木の道』」をスタートします。

テーマは、安藤正吉・初代会長がさまざまな場面で残した教えの数々や信仰実践の姿を現代社会でどのように生かしていくか。「古い時代の話」としてなおざりにしてしまっているのではなく、深く読み解くことでその「核」となる部分を、それぞれの日常生活に生かしていくことに焦点を当てます。

原則として本誌2面にて毎月掲載いたします。

連載の内容は、本誌のほかYouTubeでも動画でご覧いただけます。詳しくは2面広告をご参照ください。

#### 入社祭

10月のこよみ

1日 午前10時

よふき会例会

2日 午前10時

こはる会例会

7日 午前10時

秋季大祭

13日 午前10時

青年会例会

13日 午前10時

布教実修所

14日 午前10時

むつみ会例会

16日 午前10時

こども食堂MOGU

17日 午後5時

婦人会例会

20日 午前10時

女子青年例会

24日 午前9時50分

ほんあいOKEIKO

24日 午前10時

本部秋季大祭

26日 午前8時

# 現代に生かす

## 「用木の道」

文・安藤吉人



こうした文章は現代に生きる私たちの歩み方の道しるべとなるはずだ。

ただ、上の文章でお感じの通り、言葉づかひや戦中戦後の

今号から「現代に生かす

『用木の道』と題して連

載をすることとなりました。

お付き合いのほど、よろしく

お願いいたします。

この本愛誌は1927年

に発刊しましたが、その創

刊号の冒頭で初代会長様は

「今後教勢が進展するに伴

つて色々な問題が起り文

筆を通じてその問題を理解

して行く事も耳でお話を聞

く事と相俟<sup>あいま</sup>つて益々必要を

感じる時代となつて来てい

るのであります」と書いて

おられます。本愛誌はもと

より『用木の道』をはじめ

とされるご著書でご自身の悟

りや教理解釈の一端を書き

綴っておられました。

90年近くを経た今でも、



事前に配信用の動画収録も行われた

時代背景を反映した文章は、今の私たちにはなかなか理解しにくい部分もあります。

そうしたことを踏まえ、

初代会長様の教えとその歩

み方を、私自身がお道を歩

む中で感じることや本愛以

外のさまざまな先生方から

聞かせていただいたお話と

合わせて、あらためてお伝

えしてみたいというのがこ

の連載の本旨です。

加えて「耳でお話を聞く

事と相俟つて」とある通り、

目で読むだけでなく、耳か

らも心に治めてもらえる

よう、この連載の内容は

YouTubeで動画でも配信す

ることとしました。

ぜひ合わせて視聴してい

ただければと思います。

### 中川よし先生が話したこと

さて、かねて私が疑問に

思っていたことの一つに

「初代会長様はたった1年

足らずでどうやってあれほ

どたくさん信者を集めた

のか」という点があります。

記録によれば、正吉夫妻

が名古屋で単独布教を始め

たのは、1913年11月25

日。それからわずか7カ月、

翌年の夏には信者軒数が100

軒を超えたとあります。

いくら時代が違うとは言

え、仏教の信仰篤い名古屋

で夫婦二人でそれほど信

者ができるものでしょうか。

実は、東本大教会の史料

によれば中川よし先生は東

京からおぢばへの道中で毎

月のように名古屋で途中下

車し、正吉夫婦の集談所に

立ち寄っておられたそうな

のです。中川先生はこの時

どんなお話をされていたか

たとえばこのような言葉が

残っています。

「人の中の人になりなされ

や。人の中の人になるには

なあ、人から恩を受けたら

一生忘れるやないで。一生

かかって返すのやで。人の

ためになることをしたと思

つたら、すぐ忘れるのやで。

(中略)これ忘れなさんな」

こうした非常に明快で、

誰でもすぐに実践できるこ

とを中川先生は集まった信

徒に説いておられました。

初代会長様がたびたび口

にされた「神恩報謝」につ

ながる悟りが、ここにある

ように思えるのです。次回

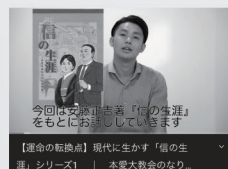
は夫妻の布教道中に触れて

みたいと思います。

## 連載の内容を YouTube でご覧いただけます！

今回の連載の内容を動画でも配信中！

『本愛誌』連載企画と一緒にご覧いただくと、より理解が深まります！



チャンネル登録

教理随想

言わん言えんの理を探る



お道の活動を進める時、常に考えるべき要点は「育ち育てることです。育てるとは、相手の心を引き出すこと。そこで今号は、教理的な側面から「引き出しの守護」について考えてみたいと思います。

今から百年前の日本女性の平均寿命は三十八才だったといわれます。もちろん高齢者もたくさんいたのに、なぜ平均寿命がこんなに低いのか。その原因はいくつか考えられますが、産婦の死亡率が高かったことがその一つにあげられるでしょ

う。それほどお産は当時の女性にとって命がけの一大事でした。人間が、最初に引き出しのご守護に浴するのは出産の時、授けられた神名はをふとのべのみこと、そしてその守護の理は、「出産の時、親の胎内から子を引き出す世話。世界では引き出し一切の守護の理」と教えられています。

胎児が母親のお腹の中で成長し、出産するべき時になるとまず胎盤が子宮から剥がれていきます。そして母体と胎児が共に出産にふさわしい体勢をとって、互いが同調する絶妙な働きの中で新生児は誕生します。人間が他の動物と全く違う営みをするようになった

のは、ひとえに脳の働きによるものですが、頭が大きいために難産になる危険もあるわけで、頭が大きくなり過ぎないうちに体外へ産まれ出ることが必要です。そこで出産時には、頭骨の繋ぎ目がうまくズレて重なることで産道を通りやすくなるという、人知を超えた奇跡のような働きが現れます。誕生まもない乳児の頭頂部が柔らかいのはこのためです。

この事実には代表されるように、親の胎内から子が産まれ出る働きを担っているのがをふとのべのみこと、そのご守護は出産時の引き出しに始まって、世界中の引き出し、すなわち万物の発展と成長に及んでいます。

人間の肉体的な成長、農作物や魚類畜類の生育、そして物事全般の成長と発展は、すべてをふとのべのみことのご守護によるものがあります。

■伸ばした理で伸びる

物事の成長とは、単に形が大きくなるだけではありません。たとえば米や麦の生育は、蒔いた籽種がふくらんでそのまま大きくなるのではなく、まず小さな芽を出し、それがだんだん伸びて葉が出る、穂が出る、花が咲く、そして実というプロセス、これが引き出しの一連の過程です。こうした点を考えると、成長にはタイミングが重要な要素になっていることが分かります。ですから成長を強要したり、また早く伸ばそうと稲の穂を引っ張るなどは最悪の行為で、タイミングを見極めた上でじっくりと育てる姿勢が肝腎です。

また人間の成長をはじめこの世のあらゆる生育・発展のご守護をいただくためには、それにふさわしい心使いが大切です。それは人を喜ばせ、人の心を伸ばす行いを実践する以外ありません。人を伸ばした理で親神様が我が身と我が家を伸ばしてください。これが天然自然の摂理であります。教祖は、「心の皺しわを、話の理で伸ばしてやるのやで。心も皺だらけになったら、落とし紙のようなものやろ。そこを、落とさずに救けるが、この道の理やで」(逸話篇45『心の皺を』)とお教えくださいました。

人間が互いに喜ばせ合い、伸ばし合うところをふとのべのみことの働きが現れ、人知を超えるご守護がいたただけるのです。混迷する世の中で倒れかかっている人に手を差し伸べ、共にたすかる道、そして成人の道へと歩んでいきましよう。

【第82回】

発展と成長の守護の元は人を喜ばせ伸ばす心に

教会長資格検定合格者

(令和3年9月17日付)

本築(本築港) 山下 秀伸  
本理愛 門田 讓  
以上2名

第114回教会長資格検定

修了者

(令和3年9月16日付)  
本築(本築港) 山下 秀伸  
本理愛 門田 讓  
以上2名

8月の初席者

本御重 石嶋 竜二  
” 和光 美里  
以上2名

おめでた

石川喜一さん(29)(本修行分教会長・石川文彦氏長男)は、大教会長夫妻の媒酌により、石井雅さん(28)(本耀分教会ようぼく・石井勇氏長女)との縁談相整い、去る9月5日、本部教

祖殿において、夫婦固めの盃をかわし華燭の典を挙げた。

本名分教会四代会長

出口道男之霊の一年祭

本名分教会では9月5日午前10時半より、四代会長出口道男之霊の一年祭が、同分教会で行われた。

お出直し

石川愛子氏(本修行分教会二代会長夫人)

8月27日に出直された。享年98歳。告別式は8月30日午前10時より、野田正道役員を齋主として執り行われた。

杉村廣子氏(本岩塚分教会三代会長夫人)

9月4日に出直された。享年87歳。告別式は9月8日午前10時より、世話人・吉田正信役員を齋主として同教会で執り行われた。

大 教 会 日 誌

令和2年8月25日～令和2年9月24日

8月

26日 本部月次祭

12日 常任役員会議

31日 常任役員会議◇役員会議

13日 月次祭

9月

祭主・大教会長 扨者・松原友治、大倉光晴

1日 入社祭

指図方・板山公司 賛者・大池美公雄、野田正樹

祭主・大教会長 扨者・和光重男、山神茂彦

◇大教会長挨拶

指図方・板山公司 賛者・津田豊郎、山本治行

青年会例会

秋季霊祭

16日 むつみ会例会

祭主・大教会長 扨者・大倉八郎、野田正道

17日 こども食堂MOGU (参加者40名)

指図方・板山公司 賛者・伊藤寿輝、中島裕信

20日 婦人会例会

2日 よふき会例会

おつとめ・十二下りてをどり

5日 女子青年例会

23日 こはる会例会